

米沢市都市計画マスタープラン及び米沢市立地適正化計画 第1回検討委員会 会議録（要点筆記）

- 1 日 時 平成30年8月2日（木） 午後2時57分～午後4時35分
- 2 場 所 米沢市役所 庁議室
- 3 出席者 委 員 増村力委員長、小林秀一委員長代理、伊藤美智子委員
大木一明委員、加藤渉委員、小林正義委員、須貝容子委員
高澤由美委員、高橋弦子委員、仁藤重美委員（欠席 藤崎晃委員）
事務局 建設部長、都市整備課長、同課長補佐、都市政策主査、同課技師
（策定支援委託会社1名）

4 内 容

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) あいさつ
- (4) 委員及び事務局紹介
- (5) 委員長の選出及び委員長代理の指名
- (6) 議事
 - ① 会議等の公開・非公開及び委員の個人情報の取扱いについて
 - ② 米沢市都市計画マスタープラン及び米沢市立地適正化計画検討委員会の役割について
 - ③ 米沢市の都市計画について
 - ④ 米沢市都市計画マスタープラン及び米沢市立地適正化計画について
 - ⑤ その他
- (7) その他
- (8) 閉会

〔開始 午後2時57分〕

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) あいさつ 市長
 - ・多くの地方都市では、急速に人口が減少し、拡散した市街地のまま低密度化している。
 - ・一定の人口密度で支えられてきた医療や福祉、子育て支援、商業等の生活サービスの提供が将来的に困難になりかねない状況である。
 - ・本市においても、他の地方都市と同様の状況にある。
 - ・更に、今年3月に出された国の人口推計において、人口減少が加速化しており、将来に向かって対応が求められる状況にある。

- ・都市計画マスタープラン及び立地適正化計画は、時代に合った適切な都市計画や都市機能を構築するための計画であり、持続可能な都市経営を実現するために必要な計画のひとつである。
- ・委員のみなさまには、よりよい都市経営の実現に向けて、活発な御議論をお願いしたい。

(4) 委員及び事務局紹介

(5) 委員長の選出及び委員長代理の指名

全会一致により、委員長に増村力委員を選出。また、委員長代理には、委員長より小林秀一委員を指名した。

(6) 議事

米沢市都市計画マスタープラン及び米沢市立地適正化計画検討委員会設置要綱第5条第2項の規定に基づき、委員長が議長となり議事進行を行った。

① 会議等の公開・非公開及び委員の個人情報の取扱いについて

事務局より、資料（P 1～2）に基づき説明。

（説明のとおり承認）

② 米沢市都市計画マスタープラン及び米沢市立地適正化計画検討委員会の役割について

事務局より、資料（P 3～4）に基づき説明。

（説明について了承）

③ 米沢市の都市計画について

事務局より、スライド映写により説明（配布する「米沢市の都市計画」を参照。）。

（説明について了承）

④ 米沢市都市計画マスタープラン及び米沢市立地適正化計画について

事務局より、資料（P 5～12）及び立地適正化計画概要パンフレットに基づき説明。

(委員)

本計画は、病院建設や学校統廃合の問題も密接に関係すると考えるが、建替え等のスケジュールは何か決まっているのか。まだ、決まっていない場合は、いつまでに決めるスケジュールになっているのか。

(事務局)

市立病院は、平成35年度の開院を目指し、プロポーザルでCM業者等を選定しているところである。スケジュールなどについては、随時情報提供していく。学校の統廃合についても、状況を見据えた対応としていきたい。

(委員長)

高澤委員は、中心市街地活性化委員会の委員でもあるが、そちらではどのような議論になっているか。

(委員)

議論はなかなか進まない状況ではあるが、都市全体の将来像を捉えた上での、中心市街地活性化の議論が必要との考えが共通理解となっている。その意味では、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の検討は、中心市街地の議論と関係するものである。

資料12頁の直近の作業で、「②都市が抱える課題の分析及び解決すべき課題の抽出」の分析項目に、「道路総延長の変化」「除雪の状況の変化」「上下水道の劣化に伴う維持更新」など、インフラの維持更新の状況も加えると、より具体的な議論ができると考える。

(事務局)

庁内作業部会などにおいて、情報収集し課題を分析していきたい。

(委員)

車社会が変化しつつある中、免許を返納し、公共交通に頼らなければならない患者も出てきている。しかし、患者の移動手段となるバス交通は、便数が減ってきている状況。今後、自分で移動手段を持たない交通弱者の移動手段の確保が課題である。

(事務局)

国でも、コンパクトシティ・プラス・ネットワークという言葉で示すとおり、コンパクトなまちづくりと公共交通は車の両輪であるので、一定の方向性を示すための検討を進めていく必要がある。

(委員)

人口減少が進んでおり、米沢市のみならず、近隣の町との関わりも考えながら、検討していく必要がある。

(事務局)

山形県ではこれまでの生活圏や歴史的結びつきの観点から、密接な関係にある「東南置賜圏域」を対象にして、広域連携を考慮した区域マスタープランを作成している。米沢市都市計画マスタープランは、県の区域マスタープランに即すものとして、近隣との市町との関わりも考慮した計画としていく。

(委員)

市街地整備事業など住民の土地利用に係る事業を実施する場合、人はどうしても今住んでいるところに執着するものであり、事業の進捗の課題となることが見受けられる。計画策定では、住民との計画に対する合意形成にも配慮することが重要である。

(委員)

土地の取引では、旧土地開発公社の遊休地、民間の空き家の活用が重要な課題となっている。しかしながら、空き家相談を受け、取引の成約率は5%であり、95%は未解決となっている。空き家は売れない状況であり、高齢化が進んでいく中、空き家が増加していくことも踏まえると、具体的に施策を考えないといけない。

話は変わるが、今回の計画をとおして、用途地域や都市計画道路の見直しも行うのか。

(事務局)

これからの検討課題となる。

(委員)

地域ごとに独自の問題を抱えている。その問題は、地区委員が把握している。各地区の地区委員から話をよく聞いて、検討委員会で意見を述べていきたい。

(委員)

社会福祉協議会での活動をとおして、高齢者の状況を紹介すると、免許を返納した高齢者は、移動手段がなくなることが、やはり課題と感じている。空き家の話が出たが、空き家は、どのように地域で活用できるのかなども、社会福祉の現場から、意見を述べていきたい。

(委員)

山形市から通勤しているが、米沢の空き家は多いという印象がある。

道の駅米沢が4月にオープンし、道の駅と市街地のシャトルバスの需要が出ている。

米沢と仙台間の高速バスは、道の駅に停車するので、それに乗せてもらうことで、道の駅と市街地を移動できないかとの要望も出ている。

シルバー定期も重要視している。

(委員)

除雪に関しては、明星保育所を例にすると、幅員の広い車道はしっかり除雪がされているので問題はないが、歩道については通学路でないため除雪されない。大雪が降ると除雪が追い付かないこともあり、徒歩で通園される方のために、私たちが除雪していることが多い。

今後の委員会では、議事について事前情報をいただきたい。

(委員)

資料は、事前送付していただきたい。

(委員長)

住みやすいなどの点から、本日は意見が出された。人口減少化で、市民が減っていくので、強いまちづくりの視点からも、議論が必要と考える。

⑤ その他

特になし

(7) その他

- ① 委員報酬について
- ② 次回日程について
- ③ コンパクトなまちづくりセミナーについて

(8) 閉会

〔終了 午後4時35分〕